

熊本県内における 募金の活用と支援の報告

神田公司

熊本県学童保育連絡協議会・会長

二〇一六年四月一四日の前震、同
一六日の本震という震度七の地震が二
度も襲った「平成二八年熊本地震」か
ら丸一年が経過しました。熊本県内
は、二〇一七年四月一四日から一六日
にかけて、慰霊祭や防災の講演会など
が各地で開催されました。この地震で
亡くなった方は五〇人、震災関連死は
一六七人、仮設住宅や、みなし仮設住
宅に住んでいる方は四万七千二百五十人
となっています。震度一以上の地震は、
同年四月二二日現在までに四三〇三回
を数えました。

熊本県学童保育連絡協議会（以下、
熊本県連協）と全国学童保育連絡協議
会が呼びかけた「募金」の活用につい
て、本誌二〇一七年三月号での報告以
降の状況を報告します。

◇二〇一七年四月三日、益城町にある
広安小学校（体育館が避難所となり、
地域住民の支援の拠点となった）に、
第三番目の学童保育所「広安おひさま
クラブ」が誕生しました（写真1）。
施設は広安小学校の空き教室を使い、

小学一年生から
三年生まで四〇
人が生活してい
ます。開設にと
もない、益城町
からは冷蔵庫や
テレビ、ランド
セル棚などが支
給されたものの、
食器や事務用品、
空気清浄機、絵本、遊具などがありま
せんでしたので、「募金」を六〇万円
活用して購入し、四月二八日、熊本県
連協から目録の贈呈を行いました。

現在、広安小学校の三つの学童保育
所には計一六〇人ほどの子どもたちが
在籍しています。震災以降、「退所が
少なく、継続利用の希望者が多い」「町
外のみなし仮設から通うため、延長保
育を利用するようになった家庭があ
る」「心的ダメージを受けている子ど
もも多く、配慮に気を遣う」という声
があがっています。

◇二〇一六年七月に設けられた益城中央



小児童クラブ（二年生から四年生まで
約八〇名在籍）の仮設施設の玄関に、
二〇一七年四月、雨除けが設けられまし
た（写真2）。震災の影響で工事業者が
なかなか見つからず、ようやく完成し
たものです。この工事に、「募金」から
一八万五〇〇〇円を活用しました。

◇益城町の飯野小児童クラブでは、地
震で壊れた机やキャビネット、コピー
機を購入するために、「募金」を活用
しました。飯野小児童クラブには専用
施設がなく、小学校の音楽室を借りて
保育を行っています。このため、保
育後に毎回片づけが必要となりませ
ず、学校行事で部屋を使えないことも
あるそうです。保護者会を中心に「専
用施設の建設を」との要望があり、
二〇一七年三月に益城総合体育館の武



道場で行われた町議会の一般質問で
も、町長に直接要望が伝えられました。
飯野小児童クラブでも、「退所が少
なく、継続利用の希望が多い傾向」が
見られ、児童数は長期休みの利用を含
めると五〇名近くになっていて、一刻
も早い専用施設の建設が必要です。

熊本県は二〇一六年度から、自宅が
全壊している場合には全額、大規模半
壊している場合は半額、利用料の減免
を行う「放課後児童クラブ利用者支援
事業」を実施しています。この事業は

二〇一七年度も継続されており、保護
者からは、「この事業があることで児
童クラブに通わせることができている
」との声があがっています。
あらためて、全国の皆さんがこれま
でに寄せてくださった支援に感謝しま
す。熊本県連協は、被災して「心的ダ
メージを受けている」子どもたちに遊
びをおとして「心のケア」を提供しよ
うと考え、二〇一七年の夏にも、「募金」
を活用して「遊びのプログラム」を展
開する予定です。ひきつづきのご支援
をお願いいたします。

熊本地震学童保育募金 のご報告

(2017年4月24日現在)

- ◆募金合計 4,488,982 円
*このうち全国連協が行って
いる「平成28年熊本地震学童保
育支援募金」は2,800,000円
- ◆支出済み 2,748,386 円
- ◆残高 1,740,596 円

【支出内訳】

- ・ 広安西小すずらん育成クラブ
（仮設備品） 600,000 円
- ・ 益城中央小児童クラブ（仮設備
品と雨よけ設備） 485,000 円
- ・ 被災した学童保育所へ
（遊具など） 172,508 円
- ・ 立野放課後児童クラブ〈南阿蘇
村〉（仮設学童保育所備品）
572,278 円
- ・ 飯野小学童クラブ（備品）
313,848 円
- ・ 広安小第3学童〈おひさまクラ
ブ4月3日開設〉（空き教室での
備品一式） 600,000 円
- ・ 送金手数料 4,752 円